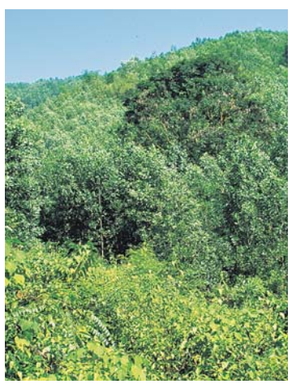

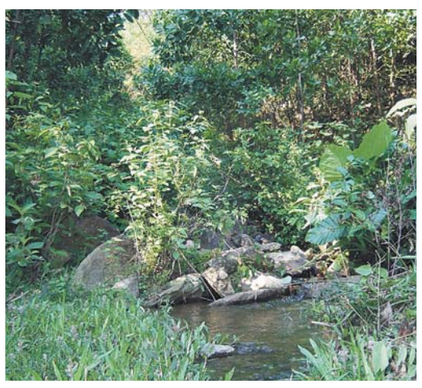

ブルー&グリーンプロジェクト

「エコダッシュ宣言」で

進むベトナムの植樹

ブルー&グリーンプロジェクトで植樹を行うことになったベトナムは、1960年代のベトナム戦争の影響や戦後の復興を急ぐ中で多くの森林を消失していた。ベトナム政府は森林の回復を目指し「500万ha植林計画」運動を展開しており、プロジェクトの植樹はこの一環として取り組まれている。

植樹地は北部の山岳地域で、06、07年はタイグェン省ドンハイ県、08~10年はクオンニン省バ・チェ県の2カ所で行われている。今年1月には84万本が植樹され、6月には100万本になる予定だ。

植樹は地域の人々の生活支援になり、樹種のアカシアマンギュウムは10年でパルプ材として販売できるので、林業として成り立つなど地域の人々の生活支援になっている。

さらに植樹により山の保水力が高まり、地域に小川が流れるようになった。農業用水の確保にも役立つなど環境面での貢献も大きい。こうした点が評価され、ベトナム政府の農業・地方開発省森林局長から感謝状が贈られている。

2期目のプロジェクトとなる200万本に向けた植樹は、ベトナム中部のクオンディエン県タフティエン　フエ省で10年から開始する。樹種はアカシアクラシカルバとモクマオウで、100万本を目標に取り組む。

植樹により山の保水力が高まり、小川が流れるようになった

……私たちも応援します……

UR都市機構　技術・コスト管理室　担当部長
高原　光吉氏

UR都市機構は、「まち・住まいづくり」を担う公的機関として、日本住宅公団設立以来半世紀以上にわたり、安全・安心で快適な美しい街づくりを進めるとともに、自然環境の保全・再生、資源やエネルギーの有効利用などに先進的に取り組んできました。

高原部長

2008年には地球温暖化対策実行計画「UR ecoプラン2008」を策定し公表しました。基本方針に、あらゆる分野で温暖化対策の取り組みを進め、削減総量の拡大を目指すこと、効果の高い取り組みを優先的に進めることなどを取り決めました。

特に、UR賃貸住宅の専用部には、省エネ型の設備・機器の積極的な導入を図っています。その1つが潜熱回収型給湯器です。同給湯器は従来型に比べ高効率でガス消費量の低減が図れ、CO_2の削減効果が期待できることから、04年度からいち早く採用し、06年度からはファミリー向け住宅に標準設置をしてきました。08年度からは既存の賃貸住宅でも従来型給湯器の取り換えが必要な機会を捉え、潜熱回収型給湯器への更新を順次実施しています。

これまで導入した潜熱回収型給湯器は累計で約2万2500台。今後も家庭のCO_2排出量削減につながるブルー&グリーンプロジェクトを応援していきます。

国際緑化推進センター　総括審議役
林　久晴氏

当センターは熱帯林の適切な保全と失われた緑の回復を目的にNGOなどの活動支援や普及啓発など様々な活動を行っています。森林の保全・造成事業では一般市民や企業、団体などからの寄付金や助成金を基に東南アジア5カ国でこれまでに大小39のプロジェクトを手がけています。

その中でもブルー&グリーンプロジェクトは最大の規模となっています。地球環境問題への早急な対応が求められる中、新技術を使って排出するCO_2だけでなく、森林のCO_2吸収力を利用して両面で削減するのは、時宜を得たインパクトのある取り組みです。

熱帯林の減少は地球規模での問題で、その回復は重要な課題です。しかし、熱帯林はほぼすべてが開発途上国にあるため、海外からの多くの支援を必要としています。

ブルー&グリーンプロジェクトはベトナム国において国際協力という形で熱帯林の回復をサポートしています。

植林するだけで木は育ちません。2~3年は人間が手入れする必要があります。

ブルー&グリーンプロジェクトでは木が育つまでの手入れも計画に入っているため、現地の雇用拡大や民生安定にも貢献しており、政府関係者はもとより住民からも非常に感謝されています。

林総括審議役

認知度向上に作文コンクール

ベターリビングではブルー&グリーンプロジェクトの事業の一環として2月17日から小中学生を対象に作文コンテストを開始した。

子供やその家族に環境活動の意義を広め、同プロジェクトの認知度の向上を目指す。

募集する作文は、同プロジェクトのホームページ内の「エコスクール」を一読してから書いてもらう。

「エコスクール」では「家の中でエネルギーを使っているのは?」「ガスをじょうずに使って省エネするには?」などのコーナーでエコジョーズ、エコウィル、エネファームなどの最新省エネ機器の普及や植樹で環境貢献している内容を紹介している。応募者はそこに書かれている内容からブルー&グリーンプロジェクトの感想や家、学校、地域など生活の中での省エネの取り組みなどをそれぞれが自由に作文にして提出する仕組みになっている。

ブルー&グリーンプロジェクトはサブユーザーには認知されてきており、今後はエンドユーザーへの浸透が課題になっている。

「環境貢献する素晴らしい取り組みだから一般に広く紹介すべきだ」という声もあり、子供たちの環境教育に寄与する目的も含め作文コンテストの開催を決定した。

日本ガス体エネルギー普及促進協議会　村木　茂会長に聞く

次期目標2年で達成へ
エコジョーズ一層の拡販に期待

日本ガス体エネルギー普及促進協議会（コラボ）はエコジョーズやエコウィル、エネファームなどの高効率給湯器の開発や市場での普及拡大を通じて、省エネ・省CO_2に取り組んでいます。その一環として、ベターリビングさんと協力し、お客さまが高効率給湯器を1台購入されるごとにベトナムに木を1本植えるブルー&グリーンプロジェクトを始めました。これによりお客さまの環境貢献への意識向上と低炭素社会の実現、そしてガスの普及促進にも貢献できると考えています。

BL-bs部品にはエコウィルやエネファームも含まれますが、100万台100万本の達成にはエコジョーズの普及が大きく貢献しました。エコジョーズは高効率でかつコンパクト化が進んだことから導入が容易になり、都市再生機構さんをはじめデベロッパーさん、ハウスメーカーさんでエコジョーズを標準化して導入していただいたことが大きいと思っています。

昨年11月には参加企業代表による「エコダッシュ宣言」を発表し、ブルー&グリーンプロジェクトの次の目標である200万台200万本に取り組んでいます。今後のエコジョーズ導入促進に向けて現在、2012年までのエコジョーズのデファクトスタンダード化を目指し、技術開発に取り組んでいます。

エコジョーズはこれまでの給湯器よりサイズが若干大きく、ドレン処理の問題もあって集合住宅のパイプシャフトに設置しにくい場合もあります。技術改良でコンパクト化やドレン処理が容易になれば、集合住宅での採用はさらに拡大するでしょう。

エコジョーズは現状暖房給湯器中心の商品構成になっていますが、風呂給湯器や給湯単能器までラインアップを拡充する計画です。そこで問題となるのはコストです。特に給湯単能器は価格の安い電気温水器との競合になります。

エコジョーズ化によるコストアップをできるだけ抑えて低炭素化に向けて効率の悪い電気温水器からエコジョーズへの切り替えを加速していきたいと考えています。さらに、エコジョーズを太陽熱パネルと組み合わせた機器も市場投入され始めました。

エコジョーズの商品拡充と、エコウィルや今年度販売を開始したエネファームも順調に普及拡大しているので、200万台200万本は2年間弱で達成すると見込んでいます。

ブルー&グリーンプロジェクトの認知度はデベロッパーさんやハウスメーカーさんといったサブユーザーさんの間ではかなり上がってきていますし、エンドユーザーさんの間でも徐々に広まりつつあります。

お客さまがガスか電気を選択するかは、ハウスメーカー・デベロッパーさんの営業戦略に大きく左右されるので、こうしたサブユーザーさんにガス器具の良さを理解していただくことが非常に重要です。

サブユーザーさんにはエコジョーズの効率や設置性の良さ、そしてエコウィル、エネファームの環境性の高さについて理解を深めていただいています。

また、サブユーザーさんにもこのプロジェクトをサポートしていただいており、社会全体が低炭素化を目指している流れの中で、我々がこのプロジェクトを行うことが、サブユーザーさんがガス器具を採用するインセンティブになるような効果も期待しています。

今後、ブルー&グリーンプロジェクトの認知度をさらに上げ、パワービルダーと呼ばれる建売専門工務店や地場工務店にまでサポートいただける活動になるよう取り組んでいきます。

これから低炭素化を進めていく流れの中で、再生可能エネルギーの利用拡大は非常に重要です。しかし、今後10~20年間で導入できる再生可能エネルギーには量的に限界があります。やはり化石燃料の高度利用が欠かせません。

特に化石燃料の中で最もCO_2排出量が少ないガス体エネルギーを一層高度に利用することは非常に重要で、そこにしっかり取り組む必要があります。

日本ガス体エネルギー普及促進協議会ではエコジョーズのディファクト化や太陽熱システムとの組み合わせ、あるいはエネファームの普及拡大などによる省CO_2を図っていく中で、今後ともブルー&グリーンプロジェクトの推進を通じて植樹によるCO_2吸収も加えることで大きな環境貢献を目指しています。

ウィズガスCLUBはブルー&グリーンプロジェクトを応援します
エコジョーズ
エコウィル
エネファーム
ウィズガスCLUB
【事務局】社団法人 日本ガス協会 業務部　東京都港区虎ノ門 1-15-12　TEL 03-3502-0115　FAX 03-3502-0675